

「2025年度秋季研究発表大会」のお知らせ

更新履歴

- 8月6日：「2025年度秋季研究発表大会」のお知らせを公開（v1）
- 9月20日：プログラムを更新、協賛団体を追加（v2）
- 9月28日：要旨投稿期限を10/6まで1週間延長しました（v3）
- 10月26日：当日のプログラムを追加（最終ページに追加）、参加申し込み期限を延長（v4）

第40回 国際P2M学会 研究発表大会 The 40th Congress of International P2M Association

国際P2M学会創立20周年記念

2025年度の国際P2M学会秋季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。つきましては、会員の皆様の研究発表を募集いたします。発表ご希望の会員は、以下の申し込み要領をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。なお、本大会は千葉工業大学津田沼キャンパス会場において対面にて形式にて開催いたします（今回はハイブリッド開催ではありません）。

1. 開催日・形式

- 開催日 : 2025年11月2日（日）
開催校 : 千葉工業大学
会場 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1
受付開始時刻・場所 : 9:00、7号館4階
最寄駅 : JR 総武線／津田沼駅《南口》 徒歩1分
京成線／京成津田沼駅下車《北口》 徒歩10分
新京成線／新津田沼駅下車 徒歩3分
アクセスマップ : <https://www.it-chiba.ac.jp/institute/access/tsudanuma/>
キャンパスマップ : <https://www.it-chiba.ac.jp/institute/campus/tsudanuma/>

2. 開催団体に関する情報

- 主催 : 一般社団法人 国際P2M学会（※）
共催 : 千葉工業大学
会長 : 国際P2M学会会長 亀山秀雄
大会実行委員長 : 新谷 幸弘（千葉工業大学 教授）
大会実行副委員長 : 下田 篤（千葉工業大学 教授）
企画委員長 : 小笠原 秀人（千葉工業大学 教授）
企画副委員長 : 新谷 幸弘（千葉工業大学 教授）
岡田 公治（東京都市大学 教授）

企画委員 : 山本 秀男、白井 久美子、石川 千尋、阿部 智恵
編集委員長 : 武富 為嗣
予稿集編集長 : 加藤 智之
予稿集編集委員 : 中野 健太郎、長島 匠
協賛（五十音順） : PMI日本支部、エンジニアリング協会、地域活性学会、化学工学会、
研究・イノベーション学会、情報サービス産業協会、日本 MOT 学会、
日本 SPI コンソーシアム、日本ソーシャル・イノベーション学会、
日本プロジェクトマネジメント協会、日本科学技術連盟、日本生産管理学会

※一般社団法人 国際 P2M 学会 : 国際 P2M 学会事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター(平日 : 10 時~17 時) TEL: 03-6824-9371/FAX:03-5227-8631

3. 大会趣旨

第 40 回研究発表大会は国際 P2M 学会創立 20 周年記念として開催します。具体的には、国際 P2M 学会の 2 つのミッションとビジョンをベースとして、これらからの活動について広く議論し、さまざまな領域で参加者のひとりひとりがプログラム&プロジェクトマネジメントの活動をより効果的に実践できるようにするための新たな起点としたいと考えています。

2 つのミッション :

- (1) 本学会は、オーナーの視点に立って、経営システムと技術システムを統合するプログラムマネジメントの知識体系の深化と実践研究を推進する事により、顧客の価値獲得を重視した共存共栄共創の持続可能な社会の構築に貢献する。
- (2) 本学会は、組織の全体使命のもとで複数のプロジェクトを有機的にマネジメントし、創造的統合マネジメントスキル手法を活用して、構想（スキーム）・構築(システム)・運営（サービス）が連結・交差した（3S モデル）構成からなるプログラムマネジメントの知識体系を社会に提供する。

2 つのビジョン :

- (1) 国際社会への発信 : 日本が世界に遅れを取っているビジネス効率性の低い要因である経営プラクティス分野の強化のためにプログラムマネジメントの知識体系が有効であることを具体的に社会に発信する。
- (2) 人材育成への貢献 : 政府のリスキリング支援のなかで、マネジメント人材育成支援を学会の方針として、さまざまな組織と連携し人材育成のための活動を行う。

本大会では、国際 P2M 学会が掲げる上記 2 つのミッションとビジョンをベースとした議論をとおして、プログラム&プロジェクトを軸に議論を深めていきたいと考えています。多くの方々の参加をお待ち申し上げます。

4. 大会スケジュール（予定）

(1) 午前：研究発表の部

9:20 - 12:05 研究発表／特別セッション

(2) 午後：講演とラウンドテーブル

12:05 - 13:30 昼食休憩

13:30 - 13:40 開会挨拶、開催校挨拶

13:40 - 14:10 記念講演（千葉工業大学 未来変革科学部 学部長 関研一教授）

14:10 - 14:50 基調講演（名誉会長 吉田邦夫氏（東京大学 名誉教授））

14:50 - 15:00 休憩

15:00 - 15:40 国際 P2M 学会 Vision2030 策定委員会報告

15:40 - 15:50 ラウンドテーブルの準備

15:50 - 17:00 ラウンドテーブル

17:00 - 17:10 閉会挨拶

5. 研究発表大会参加費関連

- ◆ 大会参加費：今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます。

会員	：正会員、法人会員に所属の方	9,000 円
	：学生会員	3,000 円
非会員	：社会人、社会人学生	12,000 円
	：学生、大学院生	5,000 円

下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。（振込最終締切：**2025年10月31日（金）**）

11月1日（土）以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。

また、10月24日（金）迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

※会員価格での学会誌掲載料（50,000 円）を希望する方は、遅くとも 2025 年 10 月 17 日

（金）までに入会手続きを済ませてください（非会員の場合の論文掲載料は 150,000 円）。

新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が 12,000 円（入会金 2,000 円、年会費 10,000 円。社会人学生を含みます）、学生会員が 6,000 円（入会金 1,000 円、年会費 5,000 円）、必要となります。

尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細は、学会ホームページから、こちらをご覧ください

→ <http://iap2m.org/accept>

- ◆ 午後の部（講演とラウンドテーブル）のみの参加費用：3,000 円（会員・非会員とも）
- ◆ 情報交換会費用：4,500 円【当日払い：5,500 円】

- ◆ 大会参加費振込み先銀行口座：
 - 三井住友銀行（銀行コード：0009）
 - 飯田橋支店（店番号：888）
 - 普通預金（口座番号：7098073）
 - 口座名義（一般社団法人 国際 P2M 学会）
- ※大会参加費の領収書は、入金後、領収書（PDF）をメールで送付いたします。宛先の指定がない場合は本人宛の領収書になりますので、ご注意下さい。
- ◆ 留意事項
 - ※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

6. 参加申し込み方法

- ◆ 参加申込期限
 - 論文投稿者：10月17日（金）迄に申込み登録を済ませてください。
 - 大会参加のみの方：参加費振込の締切 **10月31日（金）** 迄に申込登録を済ませてください。
- ◆ 研究発表大会参加申込みはこちらから（注. 発表者も、申込み登録が必要です）
 - https://www.iap2m.org/regist_taikai.html
- ◆ 参加登録に関する参考情報
 - ブラウザが Internet Explorer の場合、バージョンが新しいと無応答になる場合があります。
 - 次の操作を参考にして下さい。 <http://www.iap2m.org/pdf/ie201309.pdf>

7. 発表者への要旨と予稿の投稿登録に関するご案内

- ◆ 要旨の投稿期限及び投稿方法・学会誌掲載料
 - 要旨投稿期限：2025年9月29日（月）23時59分 → 10月6日（月）23時59分**
 - 投稿方法：要旨は、次の URL から、web 登録画面に従い入力して下さい。
 - http://www.iap2m.org/regist_smallcongress.html
 - 査読選択：予稿論文の審査を希望される方は、査読希望「●有」を画面上で選択してください。
 - 採択後の学会誌掲載料：50,000 円（会員）, 150,000 円（非会員）
- ◆ 発表投稿期限及び投稿形式・方法
 - 発表予稿投稿期限：2025年10月14日（火）18時**
 - （厳守 ※締切後の投稿は一切受け付けられません。）
 - 投稿形式：スライド形式のみの予稿も歓迎します。但し、その場合、査読は選択できません。
 - 投稿方法：要旨投稿時に登録されたメールアドレスに、後日、編集委員から「予稿投稿方法」に関するメールが届きます。それに従い、MS-Word および PDF 形式の予稿を投稿してください。
- ◆ 受付メール確認のお願い
 - 要旨及び予稿投稿締切後、編集委員より受付メールを登録アドレス宛に送信します。

なお「(at)iap2m.org ((at)を@に読みかえてください。）」のドメインから届くメールが、迷惑メールフォルダに入らないように設定してください。万が一、着信しなかった場合は、下記学会事務局宛にお問い合わせ下さい。

国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

◆ 査読を希望される方へ

査読論文：当学会では、予稿が査読論文として審査されます。ただし、発表された論文に限ります。

頁数：最大 20 ページ

論文形式：本学会 HP「学会論文関連情報」（下記 URL）にある規程等（「国際 P2M 学会誌投稿規程」、「学会論文投稿規程補足」ほか）を遵守してください。また「学会論文サンプル」も下記 URL に掲載されていますので、ご活用ください。

学会論文関連情報：<http://iap2m.org/ronbun-info/>

補 足：

- (1) 予稿集に掲載された論文は、辞退などにより発表されなかった場合も、同じ内容では再投稿はできません。
- (2) 予稿に P2M との関連性と関連参考文献を明記願います。当学会の過去の論文誌は、J-stage から閲覧できます。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour/-char/ja>
- (3) 論文執筆経験が浅い方は、「8. P2M セミナー動画の掲載」にある Youtube「IAP2M チャンネル」にある論文の書き方に関する動画を視聴するほか、学術論文作成経験者から論文作成の指導を受けることをお勧めします。またスライドではなく論文を予稿として投稿される方は、英文要旨（または英文本文）について、可能な限り英文としての品質向上に努めて下さい。

◆ 予稿提出期限の延長申請

発表時のコメントなどを参考に今大会で提出された予稿を改訂し、次期大会に査読用論文として提出できます。

- (1) 研究発表大会の発表者は、要旨を提出する際、査読希望の有無を申告する。
- (2) 査読を希望する発表者は、今大会の予稿論文を期限までに提出する。
- (3) 査読を希望する予稿提出者には、予稿提出後、編集委員または大会企画委員から、a) その予稿論文で査読を希望するのか、b) 改めて提出する修正研究論文の査読を希望するのかをメールで確認しますので、返信時に a) か b) のどちらかを回答する。
- (4) 上記3.b)の修正研究論文（但し、論文タイトルと要旨の変更は予稿と同じでなければならない）は、次の大会の予稿提出期間中（次大会の要旨提出締切日～予稿提出締切日の間）に提出されなければならない。
- (5) 査読部会と編集委員長は、次期大会の論文審査時に、上記3.b)の論文を含めて審査する。

◆ 発表方法：発表者に対して別途メールにて連絡いたします。

◆ 発表時間：発表 20 分以内、質疑応答 5 分（全体で 25 分以内）

◆ 発表奨励賞：受賞者を選出し 12 月中旬頃に学会ホームページ上に掲載し表彰します。

8. P2M セミナー動画の掲載

国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、適用事例や、論文の書き方について、本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画（YouTube）を作成しています。P2M に関する知識を深めたい方、論文執筆経験の浅い方など、広くご視聴いただければ幸いです。

詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

9. お問い合わせ先 : 国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

会場案内



JR 総武線

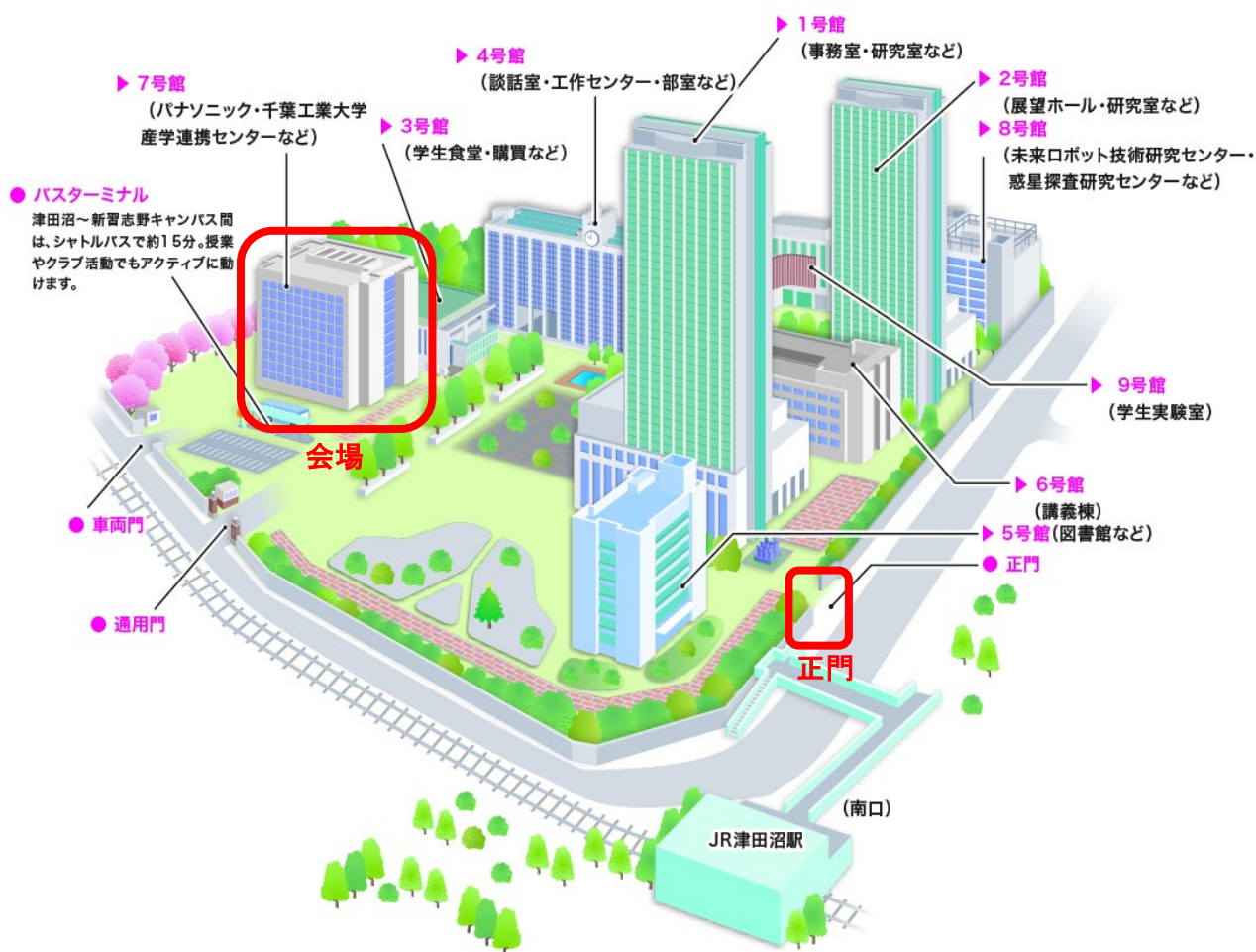
津田沼駅 駅前（南口）
徒歩 1 分 <東京駅から
快速で 28 分>

京成線

京成津田沼駅下車
徒歩 10 分 <京成上野
駅から快速で 38 分>

新京成線

新津田沼駅下車
徒歩 3 分



研究発表大会プログラム
 2025年 11月 2日 (日) 第40回 国際P2M学会 (2025年度秋季) 研究発表大会
 開催校: 千葉工業大学 (津田沼キャンパス)

国際P2M学会創立20周年記念

午前の部 (研究発表)					
会場	A会場 (7402教室)	B教室 (7403教室)	C教室 (7404教室)	D教室 (7405教室)	E教室 (7404教室)
研究発表トラック	P2Mの応用と手法	P2Mの組織/業務への応用	P2Mに基づく社会実装	R&D社会実装マネジメント研究会、博士人材と指導教員の醸成SIG	特別セッション 社会システムマネジメント研究会
座長	岡田 公治 新谷 幸弘	加藤 智之 小笠原 秀人	下田 篤 沖浦 文彦	和田 義明 山本 秀男	岡田久典
9:20-9:45	A-1: 新多泰典 P2Mを活用した高地トレーニング拠点の整備とスポーツを通じた地方創生の提案	B-1: 久武昌人 企業の不正問題に関する「意識」と「構造」 - EnhancedネオP2M -	C-1: 森田晃世 二面的目的を持つプログラムの成果達成のためのマネジメントに関する研究 - JICA草の根技術協力地域活性化事業における国内還元に着目して -	D-1: 亀山秀雄 研究成果の社会実装を加速するための価値指標マネジメント	
9:45-10:10	A-2: 河地悠馬 将棋AI開発におけるトーナメントドリブンの3Sモデル化	B-2: 加藤勇夫 技術と経営の断絶を架橋するためのフレームワークの基礎的考察 - P2Mによる予測予防的サイバーインシデント対応 -	C-2: 大島圭子 P2Mに基づく環境保全助成プロジェクト評価制度の研究 (第一報) ~ 地球環境基金助成事業の構造転換に伴う指標設計 ~	D-2: 亀山秀雄 P2Mと化学工学とAIの融合: VUCA時代におけるイノベーション創出の羅針盤	E-1: 吉川成美 「環境日本学」の共創にむけたP2Mからの分析
10:10-10:35	A-3: 中西凜 P2M スキームとゲーミフィケーションの統合による研修モデル提案	B-3: 永里賢治 P2Mのフレームワークを用いたルール形成戦略	C-3: 関宣昭 東大グリーンビレッジ構想における市民主体型P2Mの構造分析	D-3: 加藤亨 社会人博士人材育成システムの構築を目指す産学連携の取り組みについて	
10:35-10:50	休憩				
10:50-11:15	A-4: 三宅由美子 3SモデルによるPROJECT ATAMIの考察 - アートプロジェクトの事例に関する研究 -	B-5: 加藤智之 スケラブルアーキテクチャに基づく価値創造型P2Mの展開-ライフサイクルを通じたプログラム統合マネジメントのための方法論検討-	C-4: 大島圭子 環境NPOの持続的成長を支える三位一体支援モデルの構築 組織・人材育成、ネットワーク、成果波及を統合した振興事業設計と実践	D-4: 枝達肇 社会人博士を目指す人材育成に向けた支援システムの構築活動	E-2: 岡田久典 「国際P2M学会社会システムマネジメント研究会」の方向性
11:15-11:40	A-5: 日出間健 インタンジブルを含む価値創造ストーリー実現のためのビジネスモデル変革プログラムにおけるシミュレーション技法の活用	B-6: 下田篤 大学におけるデジタル変革人材の育成	C-5: 永井亮 非営利組織中心の多主体協働型プログラム助成金制度の設計と実証的考察 - 地球環境基金「戦略プロジェクト (政策課題協働型)」の事例研究 -	D-5: 坂井剛太郎 社会人マネジメント系博士を目指す人材に向けた博士号取得支援システムの構築について	E-3: 大和田順子、「地域社会システムマネジメント」の考え方~世界農業遺産認定から10周年を迎えたみなべ・田辺の梅システムを事例として~
11:40-12:05	A-4: 齊藤毅 ウォーターフォール・アジャイルを通じた両利きの経営とP2M		C-6: 久保裕史 環境NPO支援におけるP2M口ジョックモデル活用の実践研究 地球環境基金における生成AIを活用した半自動記入法の開発とOJT	D-6: 坂上慶子 企業グループ内人材育成研修サービスマネジメントのP2Mを用いた分析 - プロジェクトマネジャー・コンピテンシー醸成の観点から -	
午後の部 (基調講演、ラウンドテーブル)					
13:30-13:40	開会挨拶: 亀山秀雄 氏 (国際P2M学会会長) プログラム紹介: 新谷幸弘 氏 (秋季研究発表大会実行委員長、千葉工業大学教授)				
13:40-14:10	記念講演: 関研一 氏 (千葉工業大学 未来変革科学部 学部長/教授)				
14:10-14:50	基調講演: 名誉会長 吉田邦夫 氏 (東京大学 名誉教授)				
14:50-15:00	休憩				
15:00-15:40	国際P2M学会Vision2030策定委員会報告 ・ Vision2030 (国際P2M学会会長 亀山秀雄) ・ 各部会 (大会企画委員会、論文査読部会、P2Mマガジン編集委員会、セミナー企画委員会) からのアクションプラン ・ 博士人材と指導教員の醸成SIG ・ 社会システムマネジメント研究会 ・ R&D・社会実装マネジメント研究会				
15:40-15:50	ラウンドテーブルの準備 (パネル討論形式)				
15:50-17:00	ラウンドテーブル テーマ: マネジメントの専門職人材の育成 コーディネータ: 新谷幸弘 (千葉工業大学) / 小笠原秀人 (千葉工業大学) 発表者: 加藤亨氏 (PMA) 理事長 関宣昭氏 (特定非営利活動法人 里山を考える会 代表) 大島圭子氏 (独立行政法人 環境再生保全機構 博士) 岡田久典氏 (早稲田大学 理工学術院 環境総合研究センター 上級研究員/博士)				
17:00-17:10	閉会挨拶				